



ウクライナ人教師

53%が精神疾患の疑い

調査は1月、ウクライナ国内と避難先の周辺国にいる教師計506人からインターネットで有効回答を得た。その結果、2022年の侵攻時に比べた精神状態は「ほぼ同じ」が42%、「悪化した」が29%に上り、長引く厳しい環境が浮き彫りになった。子どもたちの学校生活について複数回答で聞くと「ミサイルや空襲のサイレンで中断され、避難所に行かねばならない」が最多の75%を占めた。

自由回答には「絶え間ない爆発、恐怖、緊張があり、誰もが疲弊している」「戦争で死んでいく人々がいる中、生き延びているだけ」と悲痛な言葉が並んだ。

趙さんは「教師たちの半数を超える精神疾患の疑いの割合は、通常ではあり得ない高さ。侵攻開始時の精神的なショックから、なかなか回復できていない」と分析している。

趙さんは中国に生まれ、同国の大学を卒業後に来日し、筑波大学院を修了。12年

ロシアの侵攻を受け、ウクライナ人の小中高校教師の53%に抑うつや不安など精神疾患の疑いがあるとの調査結果を、埼玉大(さいたま市)の留学生相談員で公認心理師の趙丹寧さん(49)らが現地の国立大と共同でまとめた。趙さんは教師たちと定期的な

オンライン勉強会を開いて心のケアに努めているとして、国立大などから7月に表彰され「教師たちを支援し、戦争で傷付いた子どもたちの心を救いたい」と願っている。

(菅原洋)

埼玉大の趙さんと「心を救いたい」オンライン勉強会 現地の国立大共同調査



ウクライナの大学などから表彰された趙丹寧さん(さいたま市)

から埼玉大の留学生相談員を務めている。埼玉大は21年、ウクライナの国立ポルタワ教育大と学術交流協定を締結。橋渡し役となった埼玉大の野中進・現副学長と、ポルタワ大のオリガ・ニコレンコ教授が、今回の調査や勉強会に協力している。埼玉大はポルタワ大などウクライナの2大学から計6人の避難学生を一時的に受け入れた。

ニコレンコ教授は23年11月に来日。趙さんは侵攻前に研究で渡航したドイツで知り合ったウクライナ人の友人がいたため、現地の教師への調査やオンラインの勉強会を提案した。今年初めから教師12人が参加する2〜3時間の勉強会を月に1回程度開いている。

勉強会では、心のケアにつながるように、明治・昭和期の精神科医で、現在の東京慈恵会医科大学教授を務めた森田正馬が創始した「森田療法」を紹介。同療法は不安や悩みを振り回されず、自然な感情として「あるがまま」に受け入れ、自分らしい生き方につなげる精神療法。参加した教師たちから「メンタルヘルス(心の健康)の安定に大変重要。心から感謝している」などの声が届いている。

この結果、趙さんはポルタワ大とウクライナ言語文学の教師連盟から表彰された。趙さんは「意外で、驚いた。大変な立場にある教師たちに寄り添えるか、不安に思いつながり勉強会を開いている。表彰はお世話になっていて先生方と教師たちと共同で受賞したと思う」と話している。

勉強会は森田療法関連団体の岡本清秋・元理事長、埼玉大の堀田香織教授、趙さんが博士課程に在籍する日大の松浦隆信教授からも協力を得ている。

ウクライナの教師らが参加したオンライン勉強会の様子(埼玉大提供)

埼玉

給湯器・トイレ・ポンプ 水まわり専門
スマイック

フリーダイヤル 0120-6999-699

県内の天気

| | きょう | あす |
|------|-----|----|
| さいたま | | |
| 熊谷 | | |
| 秩父 | | |

きょうの予想 (さいたま)
降水確率